

審査の結果の要旨

氏名 太田 啓介

本論文は、質の高い社会基盤デザインを実現するメカニズムをガバナンスの観点から分析する手法を提案し、これを用いて駅前広場整備事業において評価の高いデザイン事例を分析することを通して、デザインの質を高めるメカニズムを明らかにし、将来の社会基盤デザインの質を高める方策を提言することを主眼としている。

1章は序論であり、本論文の背景と関連する既往の研究を整理し、本論文における質の高い社会基盤デザイン及び社会基盤デザインのガバナンスについて定義したうえで、対象として駅前広場整備事業に関する質の高いデザイン事例として17事業を選定し、提案した手法を用いて事例分析することを示している。

2章では、駅前広場整備事業における社会基盤デザインの検討プロセスを明らかにしている。公共事業の実施プロセスの中で、デザインの構想から詳細を決定し、現場で実現するプロセスを駅前広場整備事業で用いられる各種マニュアルや手引きを参考に抽出し、全体デザインと個別の施設デザインそれぞれに対して検討するプロセスと一般的な体制及びツールを明らかにしている。

3章では、質の高いデザインを実現するメカニズムをガバナンスの観点から分析するための手法を提案している。分析の枠組みとして、アウトプットとしてのデザインの質に着目し、これを実現する構造を制約条件とともに示す方法を考案するとともに、収集した情報に基づき、デザインの検討プロセスと関係するアクターとガバナンスツールを抽出し、分析する手順を示している。

4章では、3章で提案した手法を用いて、17の質の高いデザイン事例と一般的な2事例を分析している。その結果、質の高い社会基盤デザインの検討プロセスにおいて、一般的な事例と比較して、多様なアクターが参画するとともに、一般的な事例では見られない会議体が設置され、調達方式にも工夫が見られることを明らかにしている。また、デザインの要素を全体デザインと各施設のデザインごとに抽出するとともに、各要素の実現プロセスに係るアクターとその役割、制約条件やガバナンスツール等を構造化することに成功している。さらに、ガバナンスツールには、公式な事業推進ツールと非公式なデザイン評価ツール

や行政規範や組織文化等の非公式ツールが存在することを示している。

5章では、事例分析の結果から、デザインの質を高めるためのメカニズムについて考察している。全体デザインにおいて調和や統合性の質を高める際には、優れたソリューションを提供可能な専門家を調達するしくみと関係者間で合意を形成するための会議体を準備している。また、これらのプロセスの妥当性を確認するために学識者の助言を求めるケースもあることを示している。一体性を目指す全体デザインを実現する場合においても、行政内外の関係者との合意形成が重要であり、そのために通常は設置されない調整のための会議体が設置する例が見られることを明らかにしている。

各施設の景観性を重視したデザインの実現においては、優れたデザイナーへの委託やその妥当性の確認のための委員会等の設置や現場における社会実験などが観察されている。緑地等のデザインでは、専門家の助言を取り込みながら、市民参加による維持管理方法の確立に向けた取組みが見られている。

デザインの検討プロセスに通常とは異なるアクターを参画させるための調達方式や、関係者間での合意形成と妥当性確認のための会議体がツールとして活用されており、これらは通常とは異なる検討プロセスを多様なアクター間で実現するメカニズムを機能させるために重要なことを指摘している。

6章は、結論であり、本論文で得られた成果を取り纏めるとともに、今後の課題を整理している。

本論文は、駅前広場整備事業を対象に質の高い社会基盤デザインを実現するメカニズムをガバナンスの観点から分析する手法を提案し、これを17の事例に適用することにより、デザインの検討プロセスにおける関係するアクターとその役割、制約条件と活用されたガバナンスツールを抽出することに成功しており、学術的貢献が認められる。また、質の高い社会基盤デザインを実現する構造を全体デザインと各施設のデザインの要素ごとに明らかにし、そのメカニズムを説明することに成功しており、事業を推進する行政担当者に対して、或いは行政のパートナーとして支援するコンサルタントに対して有益な示唆を与えており、今後の発展が大いに期待される。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。